

事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和 4年 3月 1日

公表: 令和 4年 3月 10日

事業所名 グランディールキッズまめぴよ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		活動と人数に応じて活動スペースを変え、人数に対して十分な活動スペースを確保している。	集団になる場面では感染対策を考慮し適切な感覚を保てるよう配置しているが今後も安全な環境整備を検討していく必要がある。
	2 職員の配置数は適切である	○		基準に基づく人員配置をしているが、活動や個々の状態に応じて十分な配置が出来るようにしている。	職員の大半が子育て世代であり、急な休みが重なる事があるため、余裕を持った人員配置を検討する。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		子ども達に伝わる手段を考え生活空間の環境整備に努めています。来年度から一日の流れや次の活動に見通しが持てるようクラス単位で視覚支援ボードの作成に取り組んでいる。	下駄箱の開閉のし難さや名札の劣化など、対応が遅れていることがあった。子どもたちのためにスムーズな対応を心掛けていく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		日々の清掃や消毒を徹底している。季節や子ども達の興味に合わせた空間づくりを心掛けて入る。	換気やエアコンの使い方に気を配り子どもたちにとって望ましい環境づくりを目指している。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		部署内やイベント、医務等それぞれ必要な会議を定期的実施し意見のすり合わせや周知を行っている。	部署内、個人それぞれ目標を立て年間振り返りながら達成度を確認し目標を立てている。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		保護者の方々が気兼ねなく意見を言えるよう、関係作りや環境作りに取り組んでいる。意見箱の設置している。	日頃から安心して利用していただけるよう、情報の共有や職員の育成に努める。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		毎年実施している。	職員間で課題を共有し、次年度への改善につながるよう努めている。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		他部署等、違う視点からアドバイスをもらい業務改善につなげる。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		研修後には報告書を提出するとともに部署内、法人内に伝達する機会を設けている。	必要な研修に参加できるよう機会を確保し質の向上に努めている。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		家庭での様子と事業所内での様子をそれぞれの視点からの情報をすり合わせている。	本人にとって今必要なことは何か、先を見通した時に必要となる事は何かを保護者の思いを汲み取りながら見極めていく。
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		年代別の基礎調査票を用い特性を把握している。	特性を把握し適切な対応を行い成長を促すことが出来るよう努める。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		家庭の状況と、こちらでの状況を含め、本人の為に必要な支援をご家族と共に考え設定している。	必要な時に必要な支援が出来るように、先を見据えて支援の準備をしていく。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		支援前、支援後には個々の状態を確認し計画と合わせて支援を確認している。	個々の発達状況を見ながらその都度、職員間での話し合いの時間を設け支援の見直しを行っている。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		チーム全体(各クラスやそれぞれの職種)を巻き込んでここに必要な支援を視野に入れながら活動を立案している。	関わる全ての職員への情報共有に努める。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		年間の活動目標を立て、その姿に近づくよう月ごとにねらいを立てている。	季節を感じたり、子ども達が興味を向けられるにはどうしたらよいか、発達を促す視点を大事に検討していく。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		個々の状態を見極め個別でのねらい、集団でのねらいを明確にした上で作成している。	個々の特性や成長段階を見極めながら集団の中での個別的な関りを大事にする。
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		当日の活動内容及び目的、配置を話し合いボードに記入し職員間で共有するとともに当日朝の朝礼で最終確認する。	打合せで職員の役割を明確にする。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		支援終了後、クラス単位で振り返り全体での共有が必要なことは翌日の朝礼にて報告し共有する。	当日出勤していない職員への共有を怠らない。職員それぞれが役割を持ち共有していく。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		記録を基にケース会議の中で支援等を課題に挙げ検証している。	日々の記録を充実させる。
20 定期的なモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		ケース会議とは別に月の会議の中で適宜、見直しや状況の確認を行っている。	成長段階に応じて見直しをしていく。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		積極的に参加し情報共有に努めている。	児童発達支援管理責任者だけでなく支援を直接担当する保育士や看護師が出来る限り参加できるよう調整に努める。
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		必要に応じ関係機関と連携し情報を共有し支援を行っている。	積極的な連携に努めていく。
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		訪問診療、相談支援等関わりのある機関と不安や不明な部分を損も都度共有し確認しながら連携し支援している。	いろんな場合を想定した上で必要な支援や準備をしている。
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		入園前に必ず確認し連絡が取れるようにしている。	可能な限り顔の見える関係づくりに努める。
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		就園移行する際には必ず情報提供資料で情報共有し想定される姿に備えている。	必要に応じて会議の開催や電話での細かい打ち合わせを行い丁寧な移行支援につなげる。
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		就学移行する際には必ず情報提供資料で情報共有し想定される姿に備えている。	必要に応じて会議の開催や電話での細かい打ち合わせを行い丁寧な移行支援につなげる。
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		適宜必要な研修等に参加している。	基幹相談支援の研修等にも積極的に参加していく。
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		計画していたがコロナ禍で制限があるため今年度は実施できなかった。コロナ禍でもどのような形で交流の場を作ることができるか検討する。
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		法人内で自立支援協議会に参加した職員から情報を共有している。	今後は情報共有だけでなく積極的な参加に努める。
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		受入れや引渡しの際に家庭での様子の聞き取りとこちらでの様子を話すようにしている。	必要に応じて面談を行い共通の理解を持った上で支援に取り組んでいる。
31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	○		職員向けの研修受講を行っている。個々の相談に応じて家族支援を行っている。	今後は保護者向け勉強会及び研修という形で展開していけるようにする。	
保護者への説明責任等	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に必ず行っている。不明な点や確認事項があれば丁寧に対応できるようにしている。	変更があった場合は、その都度丁寧に説明し同意を得ていく。
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		契約時、計画作成時及び変更時、モニタリング時に詳しく説明する時間を必ず設けている。	引き続き同意を得ながら進めていく。
	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		必要に応じて面談を行っている。抱えている問題に素早い対応が出来るよう心掛けている。	日頃から相談しやすい環境や関係づくりが出来るよう努める。
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	多目的室を保護者の交流の場として開放したが、コロナ禍で思うように実施できなかった。	対策を講じた上で保護者同士の連携が取れるよう検討していきたい。
	36 子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		相談や申し入れがあった際には、即座に状況を確認し速やかに対応できるよう努めた。	引き続き速やかに対応できるよう努めるとともに課題を明確にし体制を整備していく。
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		月のお便りを発行すると共に子どもたちの様子や活動の雰囲気が伝わるようSNSで写真と共に発信している。	子ども達、保護者の方々に喜んでいただける内容を発信していきたい。
	38 個人情報の取扱いに十分注意している	○		保護者の了承を得て注意して取り扱っている。	引き続き取り扱いには十分に配慮した上でやりとりしていく。
	39 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		徳衛や状況に応じて伝達方法を変えている。	本人や保護者の特性を十分理解出来る限り配慮していく。
	40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		福祉センターや町内の作品展に出展させていただくなど交流を図っている。	今後も共生を目指し地域と交流を図っていく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		マニュアルを策定し必要な訓練を実施している。	定期的にマニュアルの見直しを行っていく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		月1回以上災害時に備えた訓練を行っている。	今後も消防署に訪問したり、訓練の為に消防署から研修に来ていただく機会を設け連携を図っていく。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		健康状態を事前に確認し支援する職員が把握できるようにしている。	てんかん発作等、健康上配慮が必要なお子さんに関しては、危険な状態を見極められるようフローチャートを作成し適宜見直すようにしている。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		アレルギーに関する調査票アンケートを実施している。	必要に応じ医師からの指示書をもらい対応を確認していく。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハットを記録するとともに、その日のうちに部署内で共有できるようにしている。	今後の対応を細かく分析し十分に配慮する事でアクシデントを防ぐことが出来るような記録や共有の仕方を考えていく。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		委員会を設置し法人内、部署内研修を行い日頃の関わりを振り返る機会を持っている。	個人の思いだけでなく、部署内、法人内の思いをすり合わせ日頃の関わりを確認できる体制づくりを目指す。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		組織の中でも検討を重ねた上で、保護者に真摯に向き合うよう努めている	様々な角度からの意見を収集し根拠を明確にできるようにしていく。また、適宜見直せる体制を構築していく。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。